

SY12-3

共に歩む：不登校児童支援における
ICT活用と多職種連携の展望

石井 隆大

久留米大学医学部医学科 小児科学講座

久留米大学小児科子どもの心のクリニックでは、日々様々な相談を受ける中で不登校の相談も多く割合を占めている。近年、情報技術の革新的な進歩があり、新型コロナウイルス感染症の流行後も子ども達の周りに限らず、我々の周りでも多くの技術革新があった。4Gから5Gなどへの情報通信帯の進歩に伴い、電話に映像がつくことが当たり前となり、インターネット会議と呼ばれていた作業も「Zoom会議」という名前で世間に浸透したことはもう一昔前の話である。

過去最大の不登校児童数に対処するため、2023年に文部科学省はCOCOLOプランを打ち出した。コミュニケーションと共感を重視し、学校と家庭、地域との連携を強化することを目指しており、加えて、ICT技術の積極的な活用もCOCOLOプランには含まれている。オンライン教育や遠隔学習の手段として位置付けられ、ICT技術を通じて、不登校児童が学びやつながりを失わず、自分らしい学びの場を見つけることができることが期待されている。COCOLOプランは、従来の学校教育の枠組みを超えて、柔軟で包括的な支援を提供することを目標とされている。

このような中で、子ども達の不登校や心の問題に対して久留米大学でも診療から医療連携並びに教育との連携においてICT(Information communication and technology)やIoT(internet of things)の導入が加速度的に進んだ。学校授業への参加が入院中にも可能となったり、遠方の教育関係者や行政支援を手伝ってもらっているソーシャルワーカーとの会議の実施、病院間での親子の心の問題を話し合う場になったりとニーズは多岐に渡る。若手による小児保健検討委員会では、不登校の児童生徒に対して、不登校の児童生徒へのICT活用について調査・研究を行った中で臨床の現場から学べることも多く、同時期に久留米市でも不登校対策方針策定委員会が発足した。

臨床の現場、また教育機関と関わる中での学び、調査・研究を通して臨床の現場から見えたバリアについて具体的な例も交えながらお伝えし、不登校児童に対する支援を「多職種で支える」をキーワードにまとめ、議論を深めたいと考えられている。